

「水曜サロン with 赤堀会長」第6期 第4回(通算79回)

GIGA 端末の日常的活用からその先へ ～能登半島地震で能美市の子どもたちのとった行動とは?～

1. 内容

- 令和6年度文部科学省リーディングDXスクール指定校6校、協力校5校、能美市内全小中学校が関与している。
- Chromebookを小学校1年生から貸与。主に写真や動画からスタートする。
- 導入初期は教師の指示で端末を使っていたが、現在は児童生徒自身が必要な時に自由に使う、使う場面は児童生徒が自分で決めるということを尊重している。
- 学習スタイルにおいても、一人でじっくり学びたいのか、ペアやグループで誰かと対話をして深めたいのか、児童生徒が自分で決めることを大切にしている。
- 情報活用能力は非常に高かった。(全国学力・学習状況調査結果)
- 市PTA連合会でGIGA研修会を実施し好評を得た。
- 原則端末は毎日持ち帰り。フィルタリングによって利用可能時刻を設定している。
- 能登地震で、児童生徒同士がChromebookを使って自発的につながり、安否確認、励ましあう。自ら考え、判断し、行動できている。
- GIGA端末は学びのインフラにとどまらず、災害時のレジリエンスになりうる。地震、大雪、学級閉鎖等緊急時にも学びを止めない。
- キャッチフレーズは「したいこと GIGA 端末 で叶えよう！」

2. 所感

能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。亀田先生には、能美市教育委員会から復興支援に行かれている方もいらっしゃるという大変な中で示唆に富む有意義なご講演をいただき、深く感謝申し上げます。

様々な日常的な授業での活用シーンのご紹介の中で、端末を開いている児童生徒、紙の教科書・ノート類だけを机の上に置いている児童生徒が混在する授業や、固定のグループではなく、端末を持ち歩きペアやグループ、個人などの任意の単位で学習を進めている授業の写真がありました。「いつ端末を使うかは子供が自分で決めるということを大切にしている」とさらりとご説明されましたが、それができるということは、その想定の下で授業そのものの変革がなされているということだと思います。今日はGIGA端末にフォーカスしたお話でしたので、多くは語られませんでした。ぜひ、授業改革にフォーカスしたお話をお聞きしたいと思いました。お話の端々から、市全体が同じ方向を向いて動いていらっしゃるように感じましたので、おそらく一部の“先進的な”先生だけがそうされているのではないと思います。「学びのインフラ」という言葉も出てきましたが、まさにどの学校でもどの学年・教科でも同様の考え方で授業を変革されているのだろうと思います。

「必要な時に使う」ということが日々の活動の中で定着していたからこそ、地震の際の自発的で思いやりの深い子供同士のコミュニケーションが可能だったのでしょうか。全国的にはまだ日常的な端末の自宅への持ち帰りはあまり進んでいないようですが、児童生徒に端末の活用を自由度高く任せることが主体性の発現につながるという素晴らしい例を見せていただきました。

亀田先生、ありがとうございました。